

■ 授業者より

- ・6時間の題材を、本校では5年生で4時間、6年生で2時間の学習に分割している。題材の指導計画は、1時間目で収入や支出、2時間目で契約について、3・4時間目で買い物の疑似体験とした。
- ・第1時後の児童の感想として、「家族はあまりお金をつかっていないと思っていたが、実はたくさんのお金を払っていることに気付いた。」「自分と家族のお金の使い道が全然違う。親は生活に欠かせないお金を払っているけど自分は必要ないものも買っているのでは。」などがあつた。
- ・第2時後の児童の感想は、「どこからが契約になるのかを考えて、しっかりと購入の意思をもちたい。」などがあつた。ロイロノート・スクールを使用すると、ノートの写真を児童に簡単に配付できるよさがあつた。
- ・第3時に、ノートを実際に選ぶ学習を行った。この時間は、実際に商品（ノート）を準備した。3つの視点が重要。「値段」「品質」「使い道」。友達の見えを見て、違う視点を考えているようにした。
- ・本時では、食品の購入。家族構成を設定した。食べる頻度は1週間に1度程度とし、食べる期間も指定した。ICTの活用として、写真を載せたカードを配った。ポートフォリオのような積み重ね。比較時には、知った情報や気付きを記入できるようなメモを持たせた。話し合いを経てアンケートをしたところ、「生産地・生産者」を選んだ児童の割合が上がった。「使い道」の視点は下がり、「生産地・生産者」は上昇した。「食べ物」は命に関わるため、気にするようになった。「高くても、アレルギーの問題があるし、口に入るものだから、生産地は大事。」や、「様々な種類があるからどの会社も儲かる。」という感想もあつた。

■ 研究協議（主なものを抜粋）

- ・低学年を意識して指導していることはあるか。
→生活経験が出る教科である。日常生活でどのような食べ物に触れ、口にしているか。口に入ったものについてどう感じるか。
- ・考えの比較は大事。ノートと食品（ヨーグルト）を買ったときの着眼点の違いが面白い。
- ・友達の生活と比較する際、プライバシーの保護について配慮していることはあるか。
→ノートもヨーグルトも金銭が絡む。地域によって値段設定を考える。本校は質のよいものを選ぶ傾向がある。子供が自分の家庭について自ら語りたかどつか（無理に言わせない）。
- ・よりよい買い物の視点として、「値段」や「品質」というものは、はじめから教科書に載っているのか。
→児童が自分の消費行動をまとめ、児童の言葉をつかって視点を決めている。
- ・「安全・安心」は、品質から？生産地や生産者から？価格から？そういったことは家庭科の領域とは違うのか？
→「食」も「衣」も視点が重なることが多い。生産に手間が掛かるから。安全と価格の関わりについて考える。5年生段階では、視点をたくさん出していく。
- ・家庭科の導入として、小学校の2年間はとても大切。消費に関わる難しい内容を、児童の考えを一つ一つ引き出しながら組み立てて、指導計画を着実に立てている。また、クラス全体で視点を共有することにより、様々な考えがあることに気付いていた。「主体的に」という言葉も要らないくらい、「自分の生活」のこととして学習していた。

■ 指導助言

上川教育局義務教育指導班 主任指導主事
佐藤 鮎美 様

【本時の学習から学ぶべきこと】

- ①身に付けさせたい力を明確にした題材構成であつた。今回の改訂で、発達の段階で育成する資質・能力が明確になった。本題材は、キャッシュレス化に伴い、生活の中から問題を取り上げたもの。題材の指導計画として、1時間目に、題材全体を貫く課題を設定していたため、本時においても課題を自覚して学習できていた。設定した課題について、「ノート」と「ヨーグルト」で繰り返したのがよかった。「比較」というキーワードが、視点の変化につながり、深い学びになっていた。1単位時間で行えることではないので、題材のまとまりで考えることが大事。また、動画での授業配信だったので、題材全体を見せるためには、どんなきっかけを基に課題をつかったのかを、動画の最初に見せられるとよい。
- ②ICTの活用方法は有効であつた。ロイロノート・スクールを活用し、疑似体験をさせたことによって、一人一人が情報を手に入れた上で課題解決ができた。本時では、「ICTを使うための学習」ではなく、「表現させる手段」として使っていた、好事例であつた。
- ③3つの視点で振り返ったことにより、学びの手応えや自身の姿容を見取って自覚することができていた。家庭分野での振り返りは、社会や家庭、学校生活で生かせることを考えるという視点が重要となる。「主体的に学習に取り組む態度」の見取りとして、意図的に育成すべき資質・能力を押さえ、小・中・高の全体を見通し、小学校ではどこまでできるかを考えた授業であつた。

■ 指導助言

北海道教育大学旭川校 教授

川邊 淳子 様

【今回の授業がよりよくなるために】

- ・小学校でも中学校でも「環境への配慮」が共通で出てくる。ヨーグルトについて、「食べる」だけでなく、「容器の材質」にも考えが及ぶとよい。プラスチック容器の廃棄や、マイクロプラスチックの問題がある。食べた後の廃棄までを見越すこと。そこには循環がある。ただし、環境（に配慮した容器）だけを追究すると、美味しさの追究が疎かになる。
- ・視点の最初は「いるか」「いないか」。食べ物を一から譲られることはないが、ノートは自分が残していたものが手元にある場合がある。食べ物は新たに買う。子供たちが6つの食品を選び抜いたのが素晴らしい。
- ・価格について。高価格には意味がある。企業・メーカーに、学習で身に付けたことを伝えられるようになれば、社会の一員となる。SDGsの問題もある。来年から民法が変わって18歳から「大人」となり、売買契約ができる。契約したものは解除できなくなってしまうため、小学校の段階から、買い物の学習として、選択肢の価値観を学ぶことが重要になる。日々の生活の中に契約の基礎がある。消費者は意思をもって生活する消費生活への第一歩となる。今後も、随所に選択肢がある授業を実践してもらいたい。